

令和元年度 横浜市世界を目指す若者応援事業

(個人留学による帰国報告)

●氏名

B.Mさん

●留学先

国/都市：メキシコ/トルーカ

外国の高校：Franco

●留学期間

2019年8月16日～2020年4月6日

●留学先での活動、留学で学んだこと

約8か月間のメキシコ留学で、行くまでは想像も出来なかったような経験をし、沢山のことを学んで来ました。約1年メキシコに留学する予定でしたが、COVID-19の世界的な感染拡大の影響を受け、私の利用していた留学機関が全世界の留学プログラムを中止し、強制帰国という形で予定より3か月早く留学を終えました。最後の3か月間で語学力が伸びるのが目に見えている状況での帰国は非常に悔しいものでしたが、このメキシコ留学で学んだものは沢山あります。その中でも特に「積極性の大切さ」を肌で感じることができました。

私の利用した留学機関のトルーカ支部にはイタリア、フランス、香港、デンマーク、タイ、日本からの留学生がいました。イタリアやフランスのラテン系言語出身の留学生は母国語がスペイン語に似ており、言語の上達も他国出身の留学生と比べ早く、現地の高校生とも直ぐに馴染みコミュニケーションを取っていました。アジア圏出身の留学生は、母国語と完全に違う文字を使用しているにも関わらず自分からコミュニケーションを取り、スペイン語を早く習得していました。このことから「言語力と積極性は比例している」と私は感じました。留学生だからという理由で話しかけてもらえるのを待つのではなく、自分から話しに行かなければ言語は上達しないということです。私自身も学校の事業では、最初の3か月はわかる単語を拾って繋げながら授業を受けていて推理ゲームのような状態でしたが、4か月目からの授業では質問できるようになり、「日本ではこうだよ」と日本とメキシコの違いを説明できるようになりました。この積極性は留学に来なかったら得ることができなかったと思います。

メキシコの学校の事業は、日本と同様に板書が基本スタイルです。しかし、グループワークによる授業も多くあり、生徒個人個人の積極性が重視されます。また、理科の実験では本物の豚や鳥の解剖を生徒たちだけで行い、スケールの大きさに驚かされされました。日本の学校では経験することができない貴重な体験が出来ました。

3か月早い帰国となりましたが、このメキシコ留学は自分の人生において、非常に価値のあるものでした。将来必ず役に立つ経験だと思います。

貴重な体験をさせて頂き本当にありがとうございました。